



「生活習慣病改善プログラム」実施施設紹介 神奈川県横浜市 宮川内科小児科医院

生活習慣病の改善に、臨床の最前線で積極的に関わっている宮川医院。患者さんの改善へのベクトルを適切な方向に向けるための、様々な工夫をこらして成果を挙げています。そして、ここでは本プログラムが大きな役割を担っています。

宮川内科小児科医院
院長 宮川政昭先生



患者さんの生活習慣病改善に、どう関わろうと考え
ていますか？

生活習慣病と診断された患者さんは、何をすればよいのか途方に暮れていると理解することが第一歩です。そこで、患者さんに明るい未来像を示し、そこに手を携えて向かっていく医療を心がけています。ただ、成否の鍵は患者さんの主体的な取り組み。その意欲を高めるために、わかりやすい言葉で説明したり、一緒に喜ぶことを大切にしています。

本プログラムはどのような役割を担っていますか？

患者さんが自ら納得して生活習慣病の改善に取り組むための道しるべになっています。すなわち、患者さんの現在を示すツールとして、どれほどの危険に曝されているかを理解してもらう。その上で、治療の到達点を示して、明るい将来が期待できることをわかってもらいます。それ以降は、受診の度に患者さんへの現状説明ツールとして活用しています。こうして良好なコンコードランスが確立できるので、改善に不可欠な良好なアドヒアランスが得られています。

宮川内科小児科医院のスタッフ勉強会

調査や研究を始める際には、内容を熟知するためのスタッフ勉強会が欠かせない。



本プログラムをどのように運営していますか？

当院では、これまでも色々な臨床調査や臨床研究に参加しています。そこでは看護師や事務スタッフが中心的な役割を果たしてきました。彼女らは往々にして、医師よりも素晴らしいインパクトのある行動をとってくれます。本プログラムの遂行でも同様です。最初に彼女たちはプログラムの内容を熟知するための勉強会を開きました。そこで担当メンバーを決めました。そのメンバーが手順書の作成や患者さんに参加を呼びかけるポスター等を製作。実際に患者さんのデータを取り始めると、その入力や管理に携わります。ただし、担当者だけが孤立して従事するわけではありません。勉強会は全員参加なので、プログラムの内容は皆がわかっていますし、その上で作られる手順書は運営の普遍化をもたらします。ですから、例えば研究を遂行する際に問題となる、多数のカルテの中から必要なカルテを簡単に見出すために目印をつける工夫など、全スタッフのアイデアが持ち寄られて適切な運営ができています。本プログラムでのデータ入力も、「複雑な構造ではないので、実際にさわって操作が覚えられる」と言いながら、日常臨床の中でじょうずに対応しています。

データ入力の進め方

